



IEEE International Symposium on Intelligent Signal Processing and Communication Systems 2017

NOVEMBER 6-9, 2017, XIAMEN, CHINA

ISPACS2017 中国 国際学会 報告書

平成29年11月6日～11月11日

小林研究室 修士1年 櫻井 翔太郎

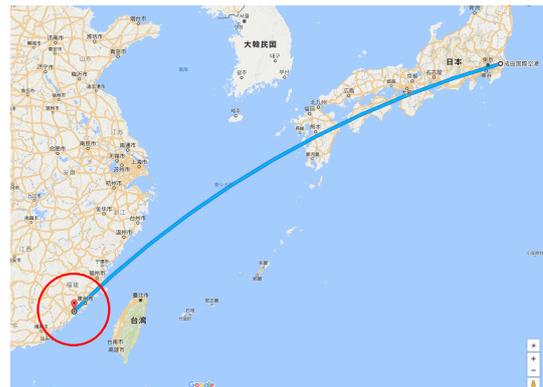
1.始めに

小林研究室毎年恒例の目玉イベントである国際学会の会議に参加させて頂くことになり、11月6日から11月11日の計6日間、中国の厦門で過ごすことになった。今年はISPACS2017という情報処理、画像処理、通信や回路系と幅広い研究成果を発表するカンファレンスで、毎年アジア場所を変えて行われており来年は日本の石垣島で開かれるという。

2.厦門

厦門は、福建省に属する中国東南部の都市で、東京からは距離にして約1100キロメートルほどである。面積は約1700キロ平米で、東京都の3/4程度の広さに373万人が住んでいる。気候は温暖で、日本とは異なり11月にも関わらず平均気温が20度を超えるリゾート気候である。温暖な気候に加え海に面した島が多いこともあって、中国国内でのリゾート地的な立ち位置となっている。特に思明区の西南に位置するコロンス島（鼓浪嶼）は中国と思えないほどのヨーロッパ的な建造物が多々存在する風情のある島で世界遺産にも登録されている。

また、経済特区に指定されていることもあり、島のあちこちに数多くの高層ビルが立ちそびえる。



↑ 厦門と日本の位置関係

3.スケジュール

- 11月6日 日本を出発、現地に到着
- 11月7日 学会初日、周辺観光
- 11月8日 学会二日目、Banquet
- 11月9日 学会最終日、Social Event
- 11月10日 観光 ー 厦門島、コロンス島へ
- 11月11日 日本に帰国



↑ 厦門市

4.学会

集美区にある高級ホテル（廈門京閩北海湾酒店）で計3日間行われ、廈門周辺に位置する中国の大学の学生が多いように感じた。招待講演では、Alibaba AI Labs.(中国版のAmazonのAI研究所が近い表現か)のチーフ技術者による深層ニューラルネットワークについての講演、地元大学である教授陣が自身の研究について講演を行っていた。内容はどれも情報系で、現在勢いのある深層学習やビッグデータに焦点を置いた話が多かった印象である。

・口頭発表

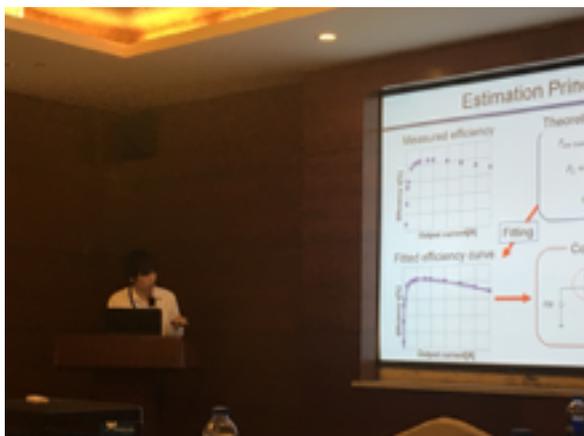
今回は2本の論文を投稿し、以下の表題で発表を行った。

1. Title : Study of Multistage Oscilloscope Trigger Circuit
Author : Shotaro Sakurai, Seiya Takigami, Takashi Ida, Yuki Ozawa, Nobukazu Tsukiji, Yasunori Kobori, Haruo Kobayashi, Ryoji Shiota
2. Title : Estimation of Circuit Component Values In Buck Converter Using Efficiency Curve
Author : Shotaro Sakurai, Nobukazu Tsukiji, Yasunori Kobori, Haruo Kobayashi

研究1はオシロスコープで用いられるトリガ回路に多段化の一般式を導出、適用した研究で、研究2は電源回路の位相補償を最適化させるために必要な寄生回路素子を直接測定することなく推定して算出する研究である。

発表時間は20分で、15分発表のち、質疑応答が5分というタイムスケジュールであった。初めての海外でしかも英語で発表するとのこととても緊張した。発表自体は原稿を見ながらの発表となってしまったが、スライドで注目して欲しい箇所を指しながら、時には聴者の様子を見て発表でき、発表練習の成果がでたと感じた。

質疑応答ではいくつか質問を頂き、内容を理解して最低限の英語で答えられたと思う。ただ、詳細な説明ができなかったため、私の伝えたいことを全て伝えることはできなかった。まだまだ英語力が乏しいことを痛感し、更に英語を勉強するモチベーションが上がった。



↑ 発表の様子



↑ 招待講演の様子

5.観光

4日目は同研究室の中国人留学生の案内で廈門島とコロンス島の観光を行った。

朝早く中国のバスへと乗り込み、集美区から廈門島へと伸びる長い橋へと向かう。平日のためか、通勤ラッシュにぶつかってしまい、島へと向かうバスはどれも満員で朝方の山手線を彷彿とさせる混雑ぶりであった。廈門島は廈門市のメインであり、超高層ビルが立ち並ぶ都会、まさに東京みたいだという印象であった。

世界遺産のコロンス島へはフェリーで向かう。島へと降り立つと、先程の都会の景色からは一転、異国情緒あふれる南の島へと変貌を遂げる。心なしか日差しも一層強くなったように感じ、11月なのに汗ばむような暑さであった。コロンス島を一日かけて回り、夜には観光客で賑わう中山路でお土産を買い、充実した観光をすることができた。



↑ 都会と歴史のある建物が混在



↑ コロンス島全景



↑ 夜景がきれい



↑ 南国らしい花



↑ 景色が良い



↑ 中山路 観光客で賑わっていた



↑ シャコたち 海の幸に富んでいることが伺える

6.食事

日本以外で食事をしたことが無かったことと、生まれつきお腹が弱いため一番不安だったが、全て美味しく、滞在中お腹を下すことは無かったため、中国の食事は自分にとってもあっていた。

海沿いということで海産物を用いた料理が多かったが、特に野菜の炒め物はどこで出されても味がよく、自宅で再現してまた食べたいと思えるほどおいしかった。



↑魚の煮込み どの店でも提供された



↑まるまるのカニ 海産物はみんな美味しい



↑中国のカップ麺 一応日清製



↑ホテルの朝食 安心できる味で揃う



↑一般的な野菜炒め 普遍的だが絶品



↑ウシガエルの煮付け ひたすらに辛かった…

7.総括

初めての海外で不安で緊張していたが、非常に楽しく、有意義な経験ができたと思う。例えば、

・英語力の身につけ方

現地では母国語である日本語がもちろん通じない。そのため私は基本的に英語を使うようにしていたのだが、滞在後半になってくると話しかけられた時に自然と英語が口から出てくるようになったことを感じた。十分に話せるほどの英語力は持ち合わせていないが、このことに自分自身で驚いた。やはり使わなければならない環境に身を置かなければ言語は上達しないと身を持って体感することができた。

・郷に入れば郷に従え

先程口から自然に英語が出てきたと記したが、私が行った国は中国である。もちろん現地では中国語が母国語であり英語は十分に伝わらず、Japanさえ通じないこともあった。そのため事前に中国語を勉強しておけば良かったと後悔している。現地に入ったなら、現地のルール、現地の言葉で過ごす必要性を感じ、このことわざの意味を実に感じる事ができた。次回、海外へ行くようなことがあれば、最低限のコミュニケーションがとれるだけの言語力を身に付けてから望みたいと思う。

等書ききれないほど多くの経験と知見を得られた。

また文化面でも多くの刺激を受けることができ、全てが新鮮で心の底から楽しむことができた。観光では全面的に留学生の方々にサポートしていただいたこともあり、本当に楽しむことができた。最終日には個人的にホテル周辺を散策して買い物をしたところ、なかなか意思疎通が取れずに苦労した。結果的にはオンラインの翻訳サービスや身振り手振りを活用して無事買い物を完遂でき、貴重な経験ができたのだが、留学生がどれだけサポートしてくれたかを非常に痛感する出来事となった。

今回、非常に濃い5日間を過ごした。海外の学生のレベルや、特に英語力の差を理把握し、まだまだ勉強が足りないと感じることができた。より英語力を磨きつつ、研究に励みまた海外学会で発表できるような成果を出したいと思う。

8.謝辞

今回の機会を与えてくださり、研究内容や発表練習に多くのご指導ご鞭撻を賜りました、小林春夫教授に感謝を申し上げます。現地にて、タクシーや宿泊先の手配をしてくださった小林研究室の先輩でもある林海军先生に感謝を申し上げます。

また研究をサポートしてくださった築地伸和様、小堀康功客員教授、今回の旅の支援をいただいた石川信宣技官に感謝を申し上げます。今回の旅において多くの手配をしてくださり、楽しいものにしてくださった同研究室の留学生の皆様にも感謝を申し上げます。

そして今回の学会参加費、渡航費にご支援をいただきました、公共財団法人 NEC C&C財団の関係者皆様に心から感謝申し上げます。